

5. アンケート集計結果

隊員対象アンケート（全般）

注：全回答者は26名。括弧内数字は回答者数。

お名前：	派遣隊次：
年齢：	派遣期間： 年 月～ 年 月
派遣先：1. ビコール大学 RSTC 2. 西ピサヤ大学 RSTC 3. アテネオ・デ・ダバオ大学 RSTC 4. DOST-SEI	担当科目：1. 物理 2. 化学 3. 生物 4. 地学 5. 一般科学 6. 数学

特に指定のない質問では、最も適切と思われるものに「レ」をつけて下さい。「その他」の場合はなるべく具体的にお書き下さい。

このフィリピン国地方理数科教育向上プロジェクトについて、現段階でプロジェクトの目標、成果などについて整理すると以下ようになります。これを踏まえて、以下の質問にお答え下さい。

<ul style="list-style-type: none"> ●プロジェクト名：フィリピン国地方理数科教育向上プロジェクト ●実施期間：1994,3,24-2001,5,31（延長分を含む） ●ターゲットグループ（プロジェクトがその実施によって、正の変化を引き起こすことを意図する主たるグループ）：対象地域の全初等・中等学校の理数科教員(約 5000人) ●対象地域：Region 5、Region 6、Region 11 の東側半分 ●プロジェクト目標（プロジェクトの実施によりプロジェクト終了時に達成が期待される目標）：対象地域の理数科教員が実験実習を採り入れた質の高い授業を行っている。 ●成果（プロジェクトの「活動」によって達成が期待される、プロジェクト目標を達成するために実現しなければならないことがら）： <ol style="list-style-type: none"> 1. RSTC による研修と、INSET システム関連の研修が適切に実施される。 2. RSTC スタッフ、及びトレーナーを含む教員が、実験実習に関する知識・技能を身につけている。 3. 理科実験器具が適切に管理され、効果的に活用されている。 4. 理数科教員が、理科実験用の低価格器具、その他実用教材の作製方法を身につけている。 5. 教員、生徒の理数科への関心が高い。
--

質問1. プロジェクトの効果について

(1) プロジェクト全体について、プロジェクト目標の達成度についてどう思われますか。

- 大いに満足 (0)
 かなり満足 (1)
 満足 (5)
 不満 (6)
 その他（具体的に _____) (12)
 無回答(2)

(2) ご自身の活動について、当初の活動計画と比べて達成度をどう思われますか。

- 大いに満足 (0)
 かなり満足 (3)
 満足 (9)
 不満 (7)
 その他（具体的に _____) (6)
 無回答 (1)

(3) 前問(2)のような達成度になった要因は何だと思えますか。以下の選択肢の中から該当するものがあれば、促進要因であったか阻害要因であったかに○をつけ、[]内に簡単に説明して下さい（複数回答可）。

- 自分の知識・技術・語学力（促進／阻害）
〔 〕
「促進」と回答(8) 「阻害」と回答(12)
- 配属先・C/P・活動の相手等の協力（促進／阻害）
〔 〕
「促進」と回答(17) 「阻害」と回答(7)
- JICAの支援体制（促進／阻害）
〔 〕
「促進」と回答(12) 「阻害」と回答(5)
- 人間関係（促進／阻害）
〔 〕
「促進」と回答(5) 「阻害」と回答(7)
- 財政上の問題（促進／阻害）
〔 〕
「促進」と回答(7) 「阻害」と回答(3)
- その他（具体的に ）（促進／阻害）
〔 〕

(4) 次の中で効果があったと考えられるのはどれですか（複数回答可）。

- RSTCによる研修やINSETシステム関連の研修がうまく運営されるようになった。(9)
- RSTCスタッフや教員が実験実習に関する知識・技能を身につけた。(14)
- 理科実験器具が適切に管理され、効果的に活用されるようになった。(6)
- 理数科教員が、理科実験用の低価格器具、その他実用教材の作成方法を身につけた。(8)
- 教員や生徒の科学への関心が高まった。(10)

(5) JICAにより投入された機材についてどうお考えですか。

- 維持管理が良好でない。(コメント) (11)
- 活用されていないものがある。(コメント) (13)
- 投入の時期が偏っている。(コメント) (4)
- 問題は無い。(コメント) (0)
- その他（具体的に) (2)

コメント

○提供したものは隊員のものではないのだから、隊員が使わないものがあったもよい。また同じタイプの活動が続くわけではないので、ある程度の機材の無駄が生じることは止むを得ないのではないか（例えば、最近は全員で出かける巡回指導よりも個人で行動することが多くなり、車を持つ必要性は薄れ、代わりにバイクの必要性がきかれるようになった）。

○配属先に維持費がない。また責任の所在が明確でなかった。

○隊員でも指導できないものがあった。

○置きっ放しになっているものがある。ほとんどのものが利用されていない。

維持管理を実際に行う人にまで、管理方法や機材の投入目的が知らされていない。特に高価なものについては、破損を恐れて使用しないこともあった。

○活用の場が設定されていないものがあった。例えば生物室の恒温器（38度に保持して孵化を促す等に使う）、蒸留水を作る機械等である。また活動の自由度が高いことから、前任の隊員が使用していた機材を後任は使用しないということも見られる。

○他の学部の人には使えない上に、隊員にとっても保管部屋に施錠してあることから使いづらい。

○導入経緯はわからないが、東京の本部からこれを使うようにと押しつけられたという印象を持っている。またこのプロジェクトのためにJICAが供与した機材をリストで確認したかった。

- 日本語マニュアルしかない、かびが生えて使えない、カリキュラム外なので使う機会がない（物理関係）等の問題がある。管理人が常駐でないことも問題。
- 薬品は非常に役に立っている。
- JICA 機材とは関係ないが、複数のドナーからの供与がある学校、何もない学校があり、他ドナーからの供与機材の遍在が気になった。
- 隊員が入ってから選定するのでは遅いからという理由で、前もって選定されていたのだと思う。しかし隊員が選ぶその後の調達をできるだけ早くするという選択肢もあるのではないか。またメンテナンスが難であることや日本語マニュアルしかないという難点を考えるとできるだけ現地調達が望まれる。
- 破損した場合はその者が弁償するという、フィリピン側の慣習は改める必要がある。
- 初期に一括投入された機材については隊員からのリクエストではなかったこともあり、活用されていないものがあった。また後続隊員への引継をきちんと行う必要がある。
- 維持管理を隊員に依存していたり、活用せずに展示品としていたりする。
- 当初は、JICA、SEI 等と寄贈先毎に機材が分けてあったが、JICA 供与機材は隊員のものという意識を持たれないように一括管理を提言した。
- 活用されていないものとして光学台がある。自分は簡単な機材でも実験ができることを見せたいと思い、C/P と相談して電流計と磁石を購入した。
- 所長は「JICA 機材は有効活用せねば」という意識はある。
- 車は巡回指導のために購入された。同じ金額があれば他のことに使えたとし、車はなくてもそれなりに活動はできたと思う。
- フィリピン人への不信感から、彼等が自由に使えないように保管してしまったが、今はオープンにすべきだったと思っている。
- 一部では活用されず埃をかぶっているようなものもあった。
- 誰が何のために選んだのか理解できない（例えば水銀マンオメーター）。日本でしか手に入らない器具、薬品ばかりで、結局 ODA は日本企業のためのような気がした。
- 相手国の要請をそのまま受けるのではなく、本当に役に立つ機材を日本側関係者が見極める必要がある。
- 活用されていないものはないが、使用頻度が低いものがある。その理由として治安や気象条件等で仕方がない（例えば、天体望遠鏡が夜間や雨天時に使用できないことを指している）ものもあるが、頻度の低いことがはじめから予想できたであろうものもある。
- 天体望遠鏡は、現地スタッフに使用方法を教える必要がある。
- 選定が不適切。使う人が選ぶべき。また3代目となるとほとんど利益を得ることはない。
- 車は比側に取り上げられさらに故障したままである。個人での活動が多くなったのでバイクがあると便利である。

(6) 対象地域以外への活動の拡大や、対象地域内での活動の深化について、以下の活動がありましたか（複数回答可）。

- 隊員が他の Region から研修の講師として招聘された。(9)
- 他の Region から見学者が来た。(6)
- その他で活動の拡大が見られた（具体的に _____) (3)
- 教員が研究会を開催する等、自主的な活動があった。(10)
- その他で活動の深化が見られた（具体的に _____) (1)

(7) 本来の業務以外で相手側に及ぼしたプラスの影響はありましたか（複数回答可）。

- RSTC と DECS が連携するようになった。(11)
- 隊員が、理数科以外の教務を支援して、相手の役に立った。(10)
- 隊員が、施設や機材の修理をして、相手の役に立った。(11)
- 教師・生徒が、教材作製以外でも不要品の活用に積極的になった。(4)
- その他（具体的に _____)。

(8) 本来の業務以外で相手側に及ぼしたマイナスの影響はありましたか(複数回答可)

相手側が、隊員の活動開始に伴い、かつて行っていた活動を停止してしまった。(2)

相手側が、隊員に過度に依存するようになった。(6)

その他(具体的に) (2)

質問5. プロジェクトのデザイン等について

(1) このプロジェクトを計画する際に、プロジェクト目標、成果、活動、投入は、相互の関連性も含めて適切に計画されていたと思いますか。

良く計画されていた。(1)

どちらかといえば良く計画されていた。(2)

中程度(6)

どちらかといえば良く計画されていなかった。(3)

良く計画されていなかった。(9)

わからない。(2)

その他(具体的に)

無回答(3)

(2) ターゲットグループの選定は妥当であったと思いますか。

妥当であった。(3)

どちらかといえば妥当であった。(4)

中程度(3)

どちらかといえば妥当でなかった。(2)

妥当でなかった。(4)

わからない。(5)

その他(具体的に)

無回答(5)

隊員対象アンケート（パッケージ協力）

注：記載がない場合は回答者は26名。括弧内数字は回答者数。

問1. この隊員派遣は、パッケージ協力（以後 P/C）の一部と位置づけられています。このことをご存知ですか（現役隊員のみ、回答 11）

- 知っている。(10)
- 知らない。(0)
- 無回答(1)

問2. 当初の計画では、日本政府による施設の提供と隊員派遣が一体となっていたのですが、これは実現しませんでした。このことについて、ご存知でしたか。（現役隊員のみ、回答 11）

- はい(2)
- いいえ(8)
- 無回答(1)

問3. この隊員派遣は、パッケージ協力（以後 P/C）の一部であったわけですが、ご自身の活動期間中に他のスキーム（プロ技、個別専門家の派遣等）の動きはわかっていましたか。（関与した隊員のみ、回答 17）

- よくわかっていた(1)
- 大体わかっていた。(8)
- 半分程度わかっていた。(4)
- 余りわからなかった。(3)
- ほとんどわからなかった。(1)

問4. 当初の計画では、無償資金協力による施設などの提供と隊員派遣が一体となっていたのですが、無償資金協力は実現しませんでした。このことについて、どうお考えですか。（関与した隊員のみ、回答 14）

- はじめの説明と違うので怒りを感じる。(0)
- 無償が実現していれば、もっと活動がうまくいったと思うので残念だ。(5)
- 特に問題ではない。(1)
- その他(6)
- 無回答(2)

・実現しなかった理由についての十分な説明が、大学や RSTC にされなかったことが問題であり、我々が説明を求められて困った。実現していればもっと幅広い活動をする可能性があったと思う。

・この計画が頓挫したことで、相手国の人々との信頼関係が損なわれたように思う。計画中止の経過、理由等、具体的に説明すべきであった。これに関する調査も不足していたと思う。

・個人的には問題無いと思うが、ピコール大学としてはかなりショックだったのではないか。この件は話が独り歩きし目的がわからなくなってしまったのではないか。

・受入側の信用を失った。コミットできないことは期待を持たせるべきでない。

・無償と隊員派遣が一体であったことが問題で、逆に実現しなかったことで自由度が増した。

問5. P/C の他のスキームとの関連で実施したことはどれですか。（複数回答）

- NTP（注：99年5月で終了）、RTP、DTP のいずれかを支援した。(12)
- プロ技専門家にアドバイスをもらった。(9)
- 個別専門家にアドバイスをもらった。(7)
- 日本での研修に参加したカウンターパートの報告をきいた。(5)
- ない(0)
- その他(0)

問6. 他のスキームとの連携がうまくいった例があれば、挙げて下さい。

- ・現場の状況を専門家に伝えた。
- ・プロ技専門家がNTPで用いた教材等を隊員にもシェアしてくれたのでRTPの準備に役だった。
- ・配属先での研修にプロ技専門家に来てもらったが、事前のアドバイス、参加者の質問への応答等での活躍において効果的だった。
- ・専門家等立場の異なる方からの助言は、プロジェクトの異なる側面を気付かせてくれた。

問7. 他のスキームとの連携が成功しなかった、または連携自体が存在しなかった場合、何が原因だったと思われますか。

- ・P/Cには、日比双方ともかなり混乱させられた。コーディネーションがうまくいっていなかった上に、途中からNTPが開始された等のためである。さらにP/Cの一部であるということでのミッションが多く大変だった。
- ・日本側関係者がP/Cというものをきちんと理解していなかったのではないかと。自分に与えられたこと以外は関係無いという雰囲気がUP-ISMED内にあった。
- ・初期は全くといっていいほど連携はなかったが、これはP/Cの概要がプロジェクトを実施する人間に周知されていなかったからと思われる。中間評価以降、具体的な連携が求められ認識が高まったのでスキームが相互に意識してコミュニケーションを取っていたと思う。
- ・JOCVとそのC/PはNTPへの参加の意欲があったが、プロ技専門家にとってその重要性が理解されていたか疑問である。
- ・P/Cを企画する時点で隊員の活動を具体的に描いていなかった。
- ・チーム派遣とP/Cの間の位置づけや役割分担など、プロジェクト全体の設計が非常に不明確だった。
- ・トップダウン形式で研修をやること自体が問題。現場サイドからすればもう少し現状認識をしっかりと持ち現状にレベルを合わせた研修にしてほしかった。
- ・フィリピン側はDOST、DECS、UP、RSTCというように多くの機関が関与していたが、縦、横のつながりが良くなかった。

問8. 今回の協力隊派遣がP/Cの一部と位置付けられていたことをどう考えますか。

またそう答えた理由は何ですか。

- 意味があった。(3)
- どちらかといえば意味があった。(3)
- どちらともいえない(2)
- どちらかといえば無意味だった。(1)
- 無意味だった。(0)
- かえって活動しにくかった(4)

「(どちらかといえば)意味があった」理由

- ・同じ事項を共有しながらそれを違う視点で話し合える人がいた。ISMEDの方がRTPにきたことも意味があった。
- ・協力隊派遣が他のスキームと協力することによって生じる相乗効果や問題点を示す実験台となったから。
- ・5年間継続的に多方面から行ったことで、より効果があったと思う。
- ・単発での協力よりも、面的な効果が出た。

「どちらともいえない」理由

- ・P/Cであるからチーム派遣となったのなら、意味があった。しかし有機的な連携をとれず基盤がなかったという点では無意味。
- ・NTPやRTPなどを支援することで自分の活動の目的・目標を達成できるならば問題ないが、問題解決

型の活動を希望する隊員にとっては自由度が低くなり、満足のいく活動にならないと思う。

・プラスとマイナスが同程度にあったと考えるので、マイナス面は隊員の役割が当初から提示されていなかったことである。

「無意味または阻害要因であった」理由

- ・事前調査が甘かった。
- ・隊員は具体的成果はなくてもいいと思われがちだが、そうであればチーム派遣の、そして P/C の一部であった意味はない。
- ・「実験・実習を採り入れればよい」という誤った概念を ISMED が広めた（UP は最高学府であり、鶴の一声のような影響があった）。現場にいた私達はそれを正すのに苦勞をした。
- ・「P/C のコンポーネントとしてこれで良いのだろうか」という不安があった。
- ・求められている機能・役割が不明確だった。
- ・P/C の一部であったことに縛られた気がした。
- ・仕事内容に制約があるような気がした。

問9. 協力隊派遣をP/Cの一部とする場合の提言

- ・関係者全員が、それぞれの役割を把握し、互いの関係を十分理解する。
- ・隊員のスタンスと役割を明らかにし、それを周知する。
- ・P/C の中で隊員が何を行うのか明示する。現実的には活動のある程度の範囲を決めておき、その中での試行錯誤を重ねるようにしたい。
- ・P/C では、何十人という日本人が関わることになるので、日本側のトップに立つリーダー（チーフアドバイザーやプロ技リーダー）は、専門性と共に人格も重視して選んでほしい。
- ・私達は見る機会がなかったが、P/C の事前調査報告や、P/C の計画等については、全員に周知すべきである。
- ・専門家は業務に支障のない語学力が必要だ。

隊員対象アンケート（チーム派遣）

注：記載がない場合は回答者は26名。括弧内数字は回答者数。

問1. チーム派遣を事前に了承していましたか（現役のみ、回答11）。

- はい（8）
- いいえ（1）
- その他（それに関する情報はなかった・・・2）
- 無回答（0）

問2. チーム派遣されることを望んでいましたか

- 望んでいた。（0）
- どちらかといえば望んでいた。（0）
- どちらでもよかった。（9）
- どちらかといえば望んでいなかった。（3）
- 望んでいなかった。（10）
- その他（情報がなくてわからなかった・・・2）
- 無回答（2）

問3. チーム派遣について、派遣前に抱いたイメージと現実との違いはどうでしたか。

- 現実とは、派遣前イメージとかなり違っていた。（9）
 - ・チームの人たちがもっと機能的に働いていると思っていた。
 - ・もっと現地の人と共に働くことが多いと思っていた。
 - ・もう少し個人が独立した形で一つの目標に向かって活動するものだと思っていた。
 - ・システムチックだと思っていた。
- 現実とは、派遣前イメージは同じようなものだった。（9）
- その他（情報がなくて描きようがなかった・・・2）
- 無回答（6）

問4. チームの隊員間でのコミュニケーションはどうであったと思われますか。

- 良かった。（8）
- どちらかといえば良かった。（8）
- 中程度（6）
- どちらかといえば悪かった。（2）
- 悪かった。（0）
- 無回答（2）

問5. コミュニケーションの方法と頻度はどのようなものでしたか。

- ・毎日ミーティングを持った。
- ・週一度ミーティングを持ち、必要に応じて隊員間で話をした。
- ・問題が起きた時は全員での会議を開いたり、個々の隊員同志で相談したりした
- ・学校へ出る機会が多くなり顔を合わせる機会が少なくなってからはホワイトボードに予定を記入するようになった。
- ・毎日顔を合わせるので、方法等は特に決めていなかった。

問6. チーム派遣のメリットは何であると思われますか（複数回答）。

- ひとりではできない大きな仕事ができる。（17）
- 比側への影響が大きい。（14）
- 隊員支援経費が潤沢である。（18）
- 教え合うことで、相互の能力が向上する。（17）

その他（シニア隊員がいる・・・1）

問7. チーム派遣のデメリットは何であると思いますか。

日本人同志がいつも集まってしまうので、現地の人と交流しにくい。(8)

日本人に気を使うのが煩わしい。(15)

自分のやりたいことができなかった。(4)

その他

- ・組織的に動かなければならない。チーム派遣では初代を除いてはある程度ルールが敷かれている。
- ・わがままといわれるかもしれないが、やりたくない仕事をやらなければならない時がある。
- ・一人で活動して何かを達成したい人にとって、好ましくない。
- ・モチベーションが阻害され、活動を自分で広げる機会もない。
- ・考え方が異なる場合には、各人がの持てる能力全てが発揮されないことがある。
- ・一緒にいることで各人が全力を出し切れていないのではないか。それは1ヶ所に5人いて過剰投資であるということにもよっている。人材育成という観点からは好ましくない。
- ・比較したりされたりすることが精神衛生上よくない。
- ・日本人として一括りにされる。
- ・フィリピン側は、隊員のひとりに伝えれば全員に伝わると思っている部分があり、それがフィリピン人と日本人とのパイプが限ることになっている。
- ・比側が勝手に専門家の部下と格付けする。
- ・語学力が伸びない。

問8. 全体的にみて、ご自身がチーム派遣であったことをどう思いますか。

良かった。(4)

どちらかといえば良かった。(6)

どちらともいえない。(9)

どちらかといえば良くなかった。(3)

良くなかった。(2)

その他(0)

無回答(2)

問9. 今後チーム派遣がされる場合には、どのような点に注意すべきであると考えますか。

- ・隊員候補者に二次試験面接、派遣前訓練等できちんと説明し、理解を得ておかないと、現地で不平不満がでる可能性がある。さらに P/C のチーム派遣となると専門家との関わりもあり縦横の關係に気を使って活動しなければならず、一般の隊員とはかなり異なる。一方で、勉強になることも確かであるから、メリット、デメリットを説明することが必要である。
- ・チーム派遣に適する人材を選考する。
- ・隊員に、チーム派遣の目的と意義を隊員に十分理解してもらい、そのために我慢せざるを得ないところは我慢してもらうことが必要。それに納得できない隊員はチームに入ってもらいたくない。
- ・チーム派遣のメリット・デメリットをきちんと説明し応募者の意志を確認した上で、アサインすべき。
- ・チーム派遣を望まない隊員はチーム派遣しない方がよい。
- ・同じ職場にいると煩わしい人間關係や過剰依存が問題となるので、同一の配属先に複数の隊員を派遣することは避ける。
- ・その上で、できれば定期的に隊員相互が情報交換ができるとよい。
- ・個人の活動を中心にするのか、チームとして何かを行うのかを明確にすべき。
- ・目標をはっきり持てるようにする。
- ・一人一人の責任分担を明確にする。
- ・派遣前に前任者の活動の情報がほしい。募集要項の情報では古くて役に立たない。

隊員対象アンケート4（国際親善・青年育成）

注：全回答者は OBOG14 名。括弧内数字は回答者数。

問1. 隊員としての活動経験は、ご自身の技術分野、または国際協力における広い意味でのスキル（任国に対する理解、言語能力、コミュニケーション能力など）の向上に役に立ったと思いますか。1～5のいずれかに○をつけて下さい。

- 大いに役に立った。(8)
- かなり役に立った。(5)
- 中程度に役に立った。(0)
- あまり役に立たなかった。(1)
- 全く役に立たなかった。(0)

問2. 帰国後、活動経験は帰国後の進路(就職、進学、結婚等)に影響を及ぼしていますか。

- 大きなプラスの影響が出ている。(3)
- プラスの影響が出ている。(8)
- 影響は出ていない。(1)
- プラス・マイナスが同程度に出ている。(2)
- マイナスの影響が出ている。(0)
- 大きなマイナスの影響が出ている。(0)

・影響が出ているかたは、どのような影響か支障のない範囲でお書き下さい。

- ・理数科教育について、もっと勉強したいと考えようになった（実現していないが）。
- ・教育職を継続したいと考えようになった（帰国後教育関係で働いていた）。
- ・フィリピン（途上国）に対する認識が変わり、フィリピンの人たちと何らかの関係を続けていきたいと思うようになった。
- ・国際協力（このプロジェクトにも）に興味を持っていて、いつかもう一度海外で活動してみたいと考えていた（そしてシニアに応募した）。
- ・海外案件の仕事に、少しではあるが携われるようになった。
- ・海外での生活経験を生かした職業を目指している。
- ・JICSの嘱託として仕事をする機会を得た。
- ・国際協力と同様、問題解決の性格を有する経営コンサルタントに就職した。
- ・教員という狭い世界から一步外へ出て、もっと広い物の見方ができるようになった（その分、帰国後その狭い世界に戻って苦しい思いもした）。
- ・どのような状況でもやっていけたことで、現在の過酷な仕事環境でもやっていけるという自信につながっている。
- ・技術的に2年4か月のブランクは大きく、復帰にかなりの努力が必要であった。

問3. 帰国後、国際協力に関連する活動をしていますか。

- 非常に積極的に実施している。(1)
 - 積極的に実施している。(1)
 - 積極的ではないが実施している。(5)
 - ほとんど実施していない。(6)
 - 全く実施していない。(1)
- ・活動している方は、活動内容をお書き下さい。

- ・協力隊説明会にOGとして参加し、経験談を話した。(4～5回)
- ・協力隊訓練生に対し、任国事情について話しをした。(1回)
- ・地域の外国人と積極的に交流を持つようになり、4～5回国際交流の場を設定した。
- ・会社や地域で、活動報告会を実施した。
- ・OB・OG会に参加している。

問4. 帰国後、派遣国の人との交流が続いていますか。

- 非常に積極的に実施している。(0)
- 積極的に実施している。(3)
- 積極的ではないが実施している。(9)
- ほとんど実施していない。(2)
- 全く実施していない。(0)

・交流している方は、活動内容をお書き下さい。

- ・メールや手紙のやり取りをしている(9名)
- ・カウンターパート研修等で関係者が来日したときは会いに行く(5回)。

問5. 派遣中に、日本について紹介する活動を行いましたか。

- 非常に積極的に行った。(0)
- 積極的に行った。(4)
- 積極的ではないが行った。(6)
- ほとんど行わなかった。(3)
- 全く行わなかった。(1)

・行った方は、どのような活動であったかお書き下さい。

- ・教育学部生での授業・教員研修等で、日本の教育システム・文化等の紹介をした(2名)
- ・小学校へサイエンスサーカスに行った際に、日本の歌などを紹介した。
- ・子供に遊びを教えた。
- ・パーティー等で日本料理を披露した(2名)。
- ・RSTC等で日本語教室を開いた(4名)
- ・大学・高校で、日本を紹介する授業を行った
- ・日本に関する授業や、質問会に参加した。
- ・本や写真で日本を紹介した。
- ・折り紙教室を行った。

<教員対象アンケート 1 >

注：全回答者は 51 名。括弧内数字は回答者数。

Name: _____

Subject: _____

School: _____

Q1. Which training program(s) assisted by JICA/JOCV did you take part in as a trainee?

Name of the program:

Month/Year:

Length:

Theme:

Q2. When laboratory works are planned in your class, are the following items available?

Preparation time Yes(47) No (2) 無回答(2)

Tools Yes (37) No(12) 無回答(2)

Support from other staff Yes(28) No(17) 無回答(6)

Q3. Has the number of the students who are good at/fond of science and mathematics been increased?

Increased largely (5)

Increased (41)

Not increased (2)

Others (1)

無回答(2)

Q4. Are there any activities such as in-house workshops available at your school where teachers can exchange their ideas and skill?

Yes(please give examples) (23)

No(27) 無回答(1)

Q5. Does your school have any teachers assigned for managing laboratory equipment?

Yes(36) No(15)

Q6. Is the laboratory equipment in your school properly maintained ?

Yes(36) No(13) 無回答(2)

Q7. Are those equipment used frequently?

Yes (times/year in average) (42)

No (7)

無回答(2)

Q8. Are the spare parts for the equipment available at the reasonable cost near the school?

Available(2)

Partially available (21)

Not available (26)

無回答(2)

Q9. Is it possible for your school to supply the material for the low cost equipment that JOCV volunteers are introducing?

Possible (21)

Partially possible (22)

Not possible (7)

無回答(1)

Q10. Do you continue to teach the same subject(s) that you are doing presently?

1) On your own will

Yes (50)

No(1) (reason

) 無回答(1)

2) By the external condition

Possible (9)

Not possible (0) (reason

) 無回答(42)

Q11. (for the trainers) Would you like to continue the activities as a trainer?

1) On your own will

Yes (34)

No(4) (reason

) 無回答(13)

2) By the external condition

Possible (14)

Not possible (0) (reason

) 無回答(37)

*** Thank you very much***

教員対象アンケート 2

注1：全回答者は109名。括弧内数字は回答者数。

注2：全設問のうち本評価調査に関連の設問のみ抜粋

Name: _____

Subject: _____

School: _____

Q1. Were the materials used in the experiments made by the JOCV members available in your school?

Yes (81)

No (23)

無回答(5)

Q2. Were you able to manipulate science equipment in your school after you attended Practical Work training involving the JOCV members after the JOCV members assisted your lesson?

Yes (91)

No (10)

無回答(8)

Q3. Please list down the following material provided by the JOCV members and check yes if you and your students are using this in your classes.

a) Simple equipment /low cost materials

Name of the equipment	Yes	No	Remarks

隊員により提供された教材があると回答(74)

上記のうち、それを授業で使用したと回答(60)

b) Handouts for the experimental/ laboratory equipment

Name of the equipment	Yes	No	Remarks

隊員により提供されたハンドアウトがあると回答(76)

上記のうち、それを授業で使ったと回答(64)

c) Lesson plan

Name of the equipment	Yes	No	Remarks

隊員により提供されたレッスンプランがあると回答(26)

上記のうち、それを授業で使ったと回答(20)

Q4. Did the laboratory activities in your class change after the JOCV members assisted your lesson?

Yes (92) No (4) 無回答(13)

a) If yes, please specify, Increase(92) Decrease(0)

Q5. Using the given rating scale of 1-3 in increasing intensity, please rate the following changes after the JOCV members assisted your lesson.

Your students' attitude in the class

	Decrease		Increase	
	1	2	3	4
a) active participation	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b) desire to learn more	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c) enthusiasm	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d) level of interest	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

a) active participation について	1(0),	2(2),	3(38),	4(56),	無回答(13)
b) desire to learn について	1(1),	2(1),	3(34),	4(61),	無回答(12)
c) enthusiasm について	1(1),	2(1),	3(34),	4(60),	無回答(13)
d) level of interest について	1(1),	2(2),	3(33),	4(58),	無回答(15)

6. 協力隊チーム派遣5年間にかかるミニッツ (1994年11月24日署名)

IV 「チーム派遣」に係るミニッツ

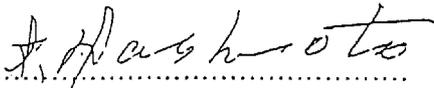
THE MINUTES OF DISCUSSIONS
BETWEEN
JAPAN OVERSEAS COOPERATION VOLUNTEERS
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT
OF THE REPUBLIC OF THE PHILIPPINES
ON
ENHANCEMENT OF PRACTICAL WORKS IN SCIENCE AND
MATHEMATICS EDUCATION AT REGIONAL LEVEL

For the purpose of working out the details of Enhancement of Practical Works in Science and Mathematics Education at Regional Level (hereinafter referred to as "the Project"), Japan Overseas Cooperation Volunteers/Japan International Cooperation Agency Philippines Office (hereinafter referred to as "JOCV/JICA") represented by Mr. Akihiko Hashimoto, Resident Representative, JICA exchanged views and had a series of discussions with the authorities concerned of the Government of the Republic of the Philippines headed by Dr. Amelia C. Ancog, Undersecretary, Department of Science and Technology (hereinafter referred to as "DOST") in respect of the desirable measures to be taken by both Governments for the successful implementation of the project.

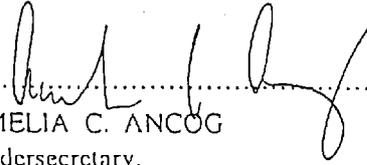
As a result of the discussions, both parties agreed to recommend their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

Manila November 24th, 1994

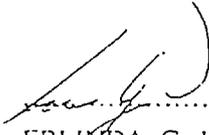
Handwritten signatures and initials:
A large signature, possibly "Akihiko Hashimoto".
Below it, a signature that appears to be "Amelia C. Ancog".
To the right, another signature.



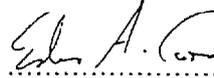
AKIHIKO HASHIMOTO
Resident Representative of Philippines Office,
Japan International Cooperation Agency



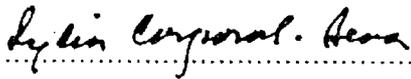
AMELIA C. ANCOG
Undersecretary,
Department of Science and Technology



ERLINDA C. PEFIANCO
Undersecretary,
Department of Education, Culture and Sports



ESTER A. GARCIA
Commissioner,
Commission on Higher Education



LYLIA CORPORAL-SENA
President,
Bicol University



BERNABE B. COCJIN
President,
West Visayas State University



EDMUND MARTINEZ
President,
Ateneo de Davao University

WITNESS



VIRGINIA P. DAVIDE
Director,
Philippine National Volunteer Service
Coordinating Agency



MORIYA MIYAMOTO
Chief Adviser,
Package Cooperation for Development
of Elementary, Secondary, Science &
Mathematics Education

1. PROJECT TITLE: Enhancement of Practical Works in Science and Mathematics Education at Regional Level

2. PERIOD OF COOPERATION: March 24, 1994 to May 31, 1999

3. PROJECT SITE: Three Model Regional Science Teaching Centers (hereinafter referred to as "RSTC") at

- (1) Bicol University in Legazpi City,
- (2) West Visayas State University in Iloilo City,
- (3) Ateneo de Davao University in Davao City, and
- (4) selected elementary and secondary schools.

4. GOAL: To upgrade the performance of science and mathematics teachers in elementary and secondary schools in the service areas of the RSTCs

5. PURPOSE OF THE PROJECT:

To strengthen the activities for upgrading practical skills of science and mathematics teachers conducted by the RSTCs.

6. OBJECTIVES OF THE PROJECT:

- (1) To assist the RSTCs in the implementation of training programs conducted by the RSTCs, especially those concerning laboratory works ;
- (2) To supplement laboratory and office equipment of the RSTCs within the budgetary limit of JOCV/JICA ;
- (3) To introduce to the selected elementary and secondary schools innovative and instructional methodology for the effective use of science laboratory equipment ; and,
- (4) To improve the capabilities of science and mathematics teachers by developing their skills on the improvisation and maintenance of science and mathematics equipment.

[Handwritten signature]

7. ACTIVITIES OF THE PROJECT :

In order to meet the above mentioned objectives of the Project, the following activities will be implemented ;

- (1) To conduct training programs concerning laboratory works at the RSTCs and selected elementary and secondary schools ;
- (2) To provide instructional activities and other necessary assistances to trainers and staff of the RSTCs ;
- (3) To implement training activities and sessions for the proper maintenance and effective use of science laboratory equipment ; and,
- (4) To conduct programs for the design and duplication of low cost equipment/materials used in the science experiments and other necessary instructional materials.

8. MEASURES TO BE TAKEN BY JOCV/JICA :

JOCV/JICA will take the following measures for the implementation of the Project in accordance with the laws and regulations in force in Japan ;

- (1) To dispatch JOCV volunteers to the RSTCs at their request through Science Education Institute-Department of Science and Technology (hereinafter referred to as "SEI-DOST") and with the endorsement of Philippines National Volunteer Service Coordinating Agency (hereinafter referred to as "PNVSCA") ;
- (2) To dispatch JOCV senior volunteer(s) as group leader(s) of JOCV volunteers for the purpose of planning and monitoring JOCV activities at the request of SEI-DOST with the endorsement of PNVSCA ;
- (3) To provide vehicles, basic laboratory and office equipment/tools to the RSTCs and for the purpose of conducting JOCV activities at the RSTCs ; and,
- (4) To provide laboratory tools to the selected elementary and secondary schools when necessary.

Handwritten signature
St. A
K. S. A. de

Handwritten signature
SAR

Handwritten signature
Mang

Handwritten signature
J. B.
B.

THE ATTACHED DOCUMENT

9. MEASURES TO BE TAKEN BY SEI-DOST AND THE MODEL RSTCS :

(1) SEI-DOST

- 1) To provide office space and necessary facilities for the use of JOCV senior volunteer(s) ;
- 2) To provide information and material concerning science education of the Philippines ;
- 3) To provide transportation expenses for official travels requested by SEI-DOST;
- 4) To coordinate with the PNVSCA relevant matters concerning the activities of the volunteers in service area of the RSTCs ; and,
- 5) To monitor the activities of the JOCV volunteers in consultation with the senior volunteer(s) and on the bases of reports submitted by the RSTCs.

(2) THREE (3) MODEL RSTCS

- 1) To supply or replace machinery, equipment, instruments, tools, spare parts and other materials necessary for the implementation of the Project other than those provided by JOCV/JICA ;
- 2) To take care of proper maintenance of equipment provided by JOCV/JICA ;
- 3) To shoulder expenses of petroleum and maintenance of vehicles, salary and allowance of driver, replacement of parts, and other operating costs for the vehicle provided by JOCV/JICA;
- 4) To assign adequate counterpart to each JOCV volunteers ;
- 5) To provide traveling expenses (stipend/allowance) to the volunteers for official travels approved by RSTC director ;
- 6) To allow the JOCV volunteers to take three-week out-of-country trip every two years of service with the RSTC ;
- 7) To shoulder expences necessary for the transportation within the Republic of the Philippines of the equipment referred to in item 8(3) ;
- 8) To shoulder customs duties, internal taxes and any other charges, imposed in the Republic of the Philippines on the equipment referred to in item 8(3) ; and,

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

Handwritten signature

THE ATTACHED DOCUMENT

9) To shoulder running expenses necessary for the implementation of the Project.

10. ADMINISTRATION OF THE PROJECT :

Activities of JOCV volunteers for the Project will be administrated as follows:

- (1) JOCV volunteers are under direct supervision of the RSTC Directors;
- (2) In accordance with item 10(1), all activities of JOCV volunteers for implementaion of the Project will be coordinated and cooperated with the RSTCs ; and,
- (3) The conduct of JOCV activities in selected elementary and secondary schools will be coordinated with the Regional Offices of DOST and DECS by the RSTCs.

11. DISTRIBUTION OF EQUIPMENT/TOOLS :

Distribution of equipment/tools provided by JOCV/JICA mentioned in item8(3) will be done through SEI-DOST, and become property of the Philippines Government. Vehicles will be turned over to the RSTCs upon the completion of the Project.

12. SELECTION OF ELEMENTARY AND SECONDARY SCHOOLS :

The selection of elementary and secondary schools for the project will be made based on the criteria to be agreed upon by JOCV/JICA, DECS, DOST Regional Offices and the RSTCs.

13. EVALUATION OF THE PROJECT :

Evaluation of the Project will be conducted jointly by JOCV/JICA and the Philippines authorities concerned, at the middle and during the last six months of the coopération period in order to examine the level of achievement.

14. MUTUAL CONSULTATION :

There will be mutual consultation between JOCV/JICA and Philippines authorities concerned on any major issues arising from, or in connection with this attached document.

